

第9回武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会後構成員意見と今後の対応

構成員	意見	対応
山崎	<p>減災対策で、地域の状況や市の取り組み等が記載されているが、周辺学校での河川に関する防災教育ということの方針だったり、実施状況であったりということを追加してはどうか。</p>	<p>来年度もしくは第4期では、どういった観点で整理したらいいのか検討を進める。</p>
上甫木	<p>減災対策で、ハザードマップ作成や、リーダー養成講座等で、どれぐらいの方が参加したか。あるいは、全体面積に対して、どの地区の方が参加しているかという情報を把握してはどうか。</p> <p>要は、ハザードマップであるとか、リーダー養成とか、そういうものを獲得している地区がどの程度あるかという達成率が見えるようにできないか。</p> <p>活発な地域とそうでない地域を整理して、取り組み方の検討に活用できるのではないか。</p>	<p>確認して整理する。</p>
服部	<p>減災対策の森林保全で、</p> <p>①森林整備何 ha という数字が出ているが、武庫川流域全体の面積からすると、どのぐらいの意味を持つのか、解析してはどうか。</p> <p>②兵庫県は県民緑税を取り、災害に強い森づくりに使っている。人口密度の高い武庫川流域で、県民緑税のどのぐらいの割合が使われているのか。</p> <p>③今年の7月ぐらいから、森林環境税を取られるようになって、各市町には森林環境譲与税が配分されている。森林環境譲与税は、防災に活用することとされているため、今後、武庫川流域において森林環境税がどの程度使われたかというデータがあれば、森林整備の成果が見えてくるのではないか。</p>	<p>来年度は第3期の総括となるため、整理し、どのような形で示せるか検討する。</p>
上甫木	<p>人と河川の豊かなふれあい及び適正な河川利用の確保について、</p> <p>①生き物環境がうまく創出できるように少し目に見えにくいところは砂岩を使用してはどうか。</p> <p>②その際、学校との連携、特に高校生の探究コースなどを行い、専門家の調査だけに留まらず、子供たち(学校との連携、特</p>	<p>潮止堰を撤去した後に汽水域が拡大し、新たな河川空間ができるため、階段を設けるなどのような形で整備している。</p> <p>一方で、流域連携の観点では、市民団体の協力や、学生の参画など、新たに創出される自然環境の空間を有効に活用できるようにということについて、今後取り組んでいきたい。</p>

	に高校生の探究コースなど) がそれを学ぶ場を設けてはどうか。	
上甫木	流域対策の貯留施設について、進捗があまり思わしくないという報告があった。例えば、水田貯留のセキ板の配布により効果について、貯留量の推計値などで評価してはどうか。 また、セキ板の配布について、配布後の使用状況の追跡調査を行うことで、貯留量の推計値の精度が高まるのではないか。	セキ板の配布による貯留量の把握については、実際の降雨の際に設置しに行くことが難しい側面があるなど、定量的な把握が難しい。例えば、アンケートを実施して実績を把握して評価するなど、方法を検討する。
大石	流域対策の貯留施設についての今後の見通しはどうか。	これまで、コロナ禍ということもあり協議する機会が失われていた。 今後は、地元へ足を運ぶ機会を増やし、少しでも多く取り組みを実施していきたい。
樋口	地元自治会として、武庫川の治水対策については、鵜の目鷹の目で見ている。しかし、工事を進めていることは分かるけれど、心からこの工事を実施していただいて、地域住民が本当に安心して毎日暮らしているという、そこまでの認識はない。武庫川水系の工事を実施するときには、周りに学校があるため、武庫川女子大学とか小学校、中学、高校、そういう方々のリーダーを集め、工事をしている皆さん方が先頭に立って説明していくという教育も大事ではないか。	コロナ禍で出前講座がびったり止まってしまったということがあったが、最近出前講座等も開催されるようになってきている。出前講座は自治会単位で行っているが、確かに学校との連携は少ないと思っている。西宮の方では、学校へ出向く出前講座も始まったので、また、学校機関と調整できれば、市の協力もいただきながら、積極的にやっていきたい。 近年、気候変動の影響で、非常に大きな雨が降るということもあって、河川整備を行っているから大丈夫ということではなく、減災の考え方も子どもたちには知っていただいて避難することを説明していきたい。
城田	減災対策について、体験型講座の開催、ハザードマップや人材育成など、知る人ぞ知るものになっている感が拭えない。周知方法というものを、もう少し工夫させる必要がある。 学校という箱に入っていない方、お年寄りなど、様々な方がすぐに時短で手軽に知る機会を増やしていく必要がある。 例えば、県民日よりや県のホームページなどでついでに目に入る、あるいは、ワンクリックですぐにアクセスできる。そういった機会が増えていけば、何気ないところで知ることができ、むしろそちらのほうが、県民の防災・減災意識が浸透していくように思う。そして、同時に県民の安心感につながる。	広報について、県でも SNS などを活用して情報発信を実施しているが、認知度の低さが課題であると思っている。 武庫川では、取り組みのリーフレットを作成して広報していた。現在このリーフレットを刷新しているところであり、新たなものは、学校教育、出前講座などで整備の話や説明をするときに活用できるようなものを作り、SNS で紹介したり、QR コードを付けて分かりやすくするといったことも考えている。 今後は、武庫川で開催される多くのイベントにおいて、リーフレットを主催者の方を通じて参加者に配って頂くことや、出前講座や市民団体を通じて、お配りして頂くことで、少しでも知る機会が増えるような形で進めていくことを考えている。
竹田	流域連携について、私は防災・減災の分野でボランティアとして従事しており、様々な団体との接触もある。	①活動事例の紹介ということについては、33 ページに記載の「コラボネット」にて、市民団体が活動内容などを紹介している。

	<p>その団体の 1 つに、外来植物をできるだけ駆除したり、川の親水性を高めるため、法面等のごみを除去したり、自然と人の博物館の方とシンポジウムを開いたり、色々な活動をしている団体がある。</p> <p>①そういった活動事例の紹介や、 ②三田市と連携しながら活動の検討や支援 を行うことで、より地域の魅力発信につながる。</p>	<p>河川部局では、市民団体の活動内容を P R するという点については対応が難しい。</p> <p>②活動の支援については、例えば、外来種駆除の活動時に、市民団体では対応が難しい高い箇所を県が担当することや、親水性を高めるためのコンクリートや石の設置などは、協力できる部分があると思われる。</p>
西本 伊丹市	<p>天神川の氾濫災害に関連して、気候変動により、平均気温が 2℃上がると、河川の流量で 1.2 倍になるという話がある。</p> <p>今回のフォローアップの話ではないが、今後、氾濫の危険が増していることを盛り込むべきではないか。</p>	<p>よく、河川整備はかんな掛けと例えられる。現在の整備計画に基づいて下流から上流へ治水安全度を上げ、達成できれば、次の整備計画に進む。</p> <p>気候変動については、次期河川整備計画を立案する際に盛り込むべきか考えていくべき。</p>
永井 西宮市	<p>ため池等の流域対策について、遅れている状況があるため、4 期での検証方法が重要。また、水田貯留等も含め、抑制効果をどのように把握していくかも、検討してもらいたい。</p>	<p>ため池等については、貯留量が分かっているため、効果量を出させて頂きたい。</p> <p>また、整備計画の位置づけは無いものの、千刈ダムの治水活用 100 万 m<sup>3</sup> が進んだことは大きいと、それも含めてお示ししたい。</p>